

中学校の部活動だより No1

～持続可能な部活動のために～

令和4年9月26日発行
角田市教育委員会事務局
教育総務課 63-0130
生涯学習課 63-2221

最近、新聞・ニュース等で話題となっている中学校の部活動ですが、文部科学省では、少子化が進む中でも、生徒にとってよりよい部活動の環境を構築するために、「学校と地域が協働」した部活動を目指し、令和5年度から休日の部活動を地域移行していくこととしております。

今回、角田市教育委員会でも、この部活動の見直しをできるかぎり円滑に行えるように、現時点での全国的な動向や角田市の取組みについて、Q&A形式で保護者、児童・生徒の皆さんにお知らせいたします（市内の小学4～6年生、中学1・2年生に配布）。

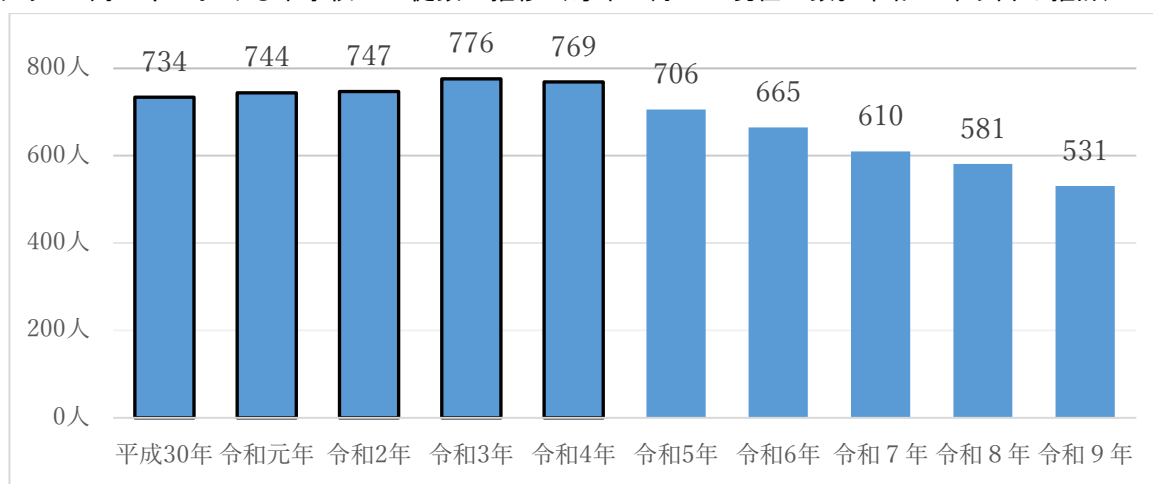
Q1 部活動において、何が問題となっているの？

中学校では生徒数が減少しており、部員が少なくなり試合に出場できないなど、活動が十分にできない部がでてきております。

また、学級数の減少に伴い教員の数も減っており、部活動は廃部や縮小に追い込まれ、このままでは、学校単位で教員が指導する現状の形を維持することは極めて困難であると指摘されています。

このような状況は、角田市でも同様となっております（グラフ参照）。

■ グラフ 角田市における中学校の生徒数の推移（毎年5月1日現在の数。令和5年以降は推計）



Q2 部活動の国の基準は？

そもそも部活動は、授業や学校行事とは異なり、国の基準では、学校で実施しなければならないものではありません（いままでの部活動は、学校の教員の献身的な勤務によって支えられてきたものです）。

そのため、部活動を維持するために学校の教員を増やすことはできず、今回、文部科学省では、学校が地域と連携することで部活動の見直しをすることとしております（詳細は裏面参照）。

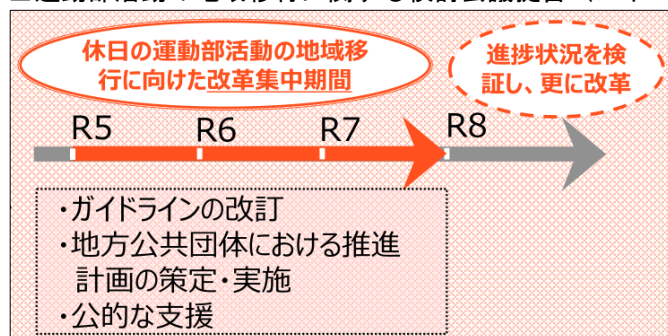
Q 3 全国的には、どうやって解決していくの？

部活動は、スポーツ・芸術文化等の幅広い活動の場であり、生徒の成長のために大変意義がある活動であることには違いありません。

そのため、この部活動を将来にわたり維持できるように国は、その第一歩として、令和5年度から令和7年度までを「部活動改革 集中期間」と位置づけ、休日の部活動を段階的に地域クラブ活動へ移行していくとしております。

また、国は令和8年度以降について平日の部活動も地域クラブ活動へ移行することを検討するとしております。

■運動部活動の地域移行に関する検討会議提言（スポーツ庁所管）より抜粋



＜地域クラブ活動のメリット＞

- ・子供たちが好きな活動を選択できます。
- ・学校の枠を超えた人とのつながり、かかわりの機会を創出できます。

Q 4 地域クラブ活動って何？

国は休日の部活動を、学校の仕事として教員が指導するのではなく、地域の活動として地域人材が指導する地域クラブ活動へ移行することを目指しております。

なお、この地域クラブ活動を今までの学校部活動と比較すると次のとおりとなります。

区分	学校部活動 (現状)	地域クラブ活動 (休日)	
		運動部	文化部
管理運営について	学校が行う	地域のスポーツ団体等が行う 例：総合型地域スポーツクラブ、スポーツ施設の指定管理者、民間業者、大学など	地域の文化芸術団体等が行う 例：音楽・絵画教室等の民間業者、大学など
指導について	教員が行う	地域のスポーツ団体の指導者や地域の人材（指導を希望する教員も含む）が行う	地域の文化芸術の指導者や地域の人材（指導を希望する教員も含む）が行う
実施場所について	学校などで実施	学校やスポーツ施設で実施	学校や文化芸術施設で実施

Q 5 角田市ではどうするの？

角田市教育委員会では、このような全国的な動向を踏まえ、角田市の現状にあった部活動のあり方について、関係者による会議を開催し検討しているところです（休日の部活動の地域移行は令和5年秋以降、段階的に実施予定で、詳細については、今後「中学校部活動だより」を随時発行しお知らせしていきます）。

また、アンケートにより児童・生徒、保護者、学校のご意見をお聞きしながら、中長期的視点で生徒にとってよりよい部活動の環境を構築できるように検討を重ねてまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。